

[様式F]

1. 研究課題名：環境保全オフセット導入のための生態系評価手法の開発



2. 研究代表者氏名及び所属：
岡部 貴美子（独立行政法人森林総合研究所）

3. 研究実施期間：平成 26～28 年度

4. 研究の趣旨・概要

気候変動枠組条約の下での温室効果ガス削減に関して国内では、カーボンオフセットやクレジットに取り組めるシステムが構築されている。一方、異なる視点だが同じくグローバルレベルの地球環境問題に関する生物多様性条約については、国内では必ずしも生物多様性保全に参画しやすい具体的なシステムが構築されていない。これまでわが国では環境アセスメント制度による生物・生態系保全が行われ一定の成功を収めてきたものの、生物多様性のネットロスを防ぐ対策など、重要な概念が含まれてこなかった。また生物多様性バンキングなど、新たな保全のアイデアも有効利用されていない。このような現状で、民間企業等を中心に生物多様性オフセットへの期待が高まる中、環境 NGO, NPO などからは懸念も表明されている。これらのことから、生物多様性保全を推進する活動として生物多様性オフセットを実施すること、さらには生物多様性オフセットを高度化し、カーボンオフセットと連携した新たな仕組み「環境保全オフセット」を検討する必要がある。このため、生態系同士を相互に比較可能にする、生物多様性、カーボン、社会経済および文化的な視点から評価する手法の開発研究を行う。またこれらの評価手法と評価を組み込んだ制度について、制度構築と合意形成の両面から検討し、環境保全オフセット開発に資する。

5. 研究項目及び実施体制

- ①森林生態系における生物多様性オフセット評価手法の開発（森林総合研究所）
- ②湿地・草地における生物多様性オフセット評価手法の開発（法政大学）
- ③カーボンオフセットを付加した環境保全オフセット評価手法の開発（森林総合研究所）
- ④環境保全オフセットにおける生態系サービス評価手法の研究（東京農業大学）
- ⑤環境保全オフセット実施に向けた制度及び合意形成過程の検討（国立環境研究所）

6. 研究のイメージ

